

特集

チーム医療における臨床検査技師の役割

山本 誠一・金原 正昭・中野 忠男・加藤 亮二

純真学園大学 保健医療学部 検査科学科

The Role of The Medical Technologists in The Team Medicine

Seiichi YAMAMOTO, Masaaki KANAHARA, Tadao NAKANO, Ryoji KATO

Department of Medical Laboratory Science, Faculty of Health Sciences JUNSHIN GAKUEN University

要旨： 病院で行われているチーム医療における臨床検査技師の役割の現状と大学におけるチーム医療教育の現状を述べる。病院ではチーム医療の重要性が益々高まっており、その中での臨床検査技師の役割も増加すると共に益々重要になってきている。大学では、現在のカリキュラムを有効に活用して、各職種の業務内容をよく理解し、知識、技能のみならず人間力、看護力、コミュニケーション力を習得し、チーム医療の中で、重要なポジションを任される臨床検査技師に成長することを切望する。

キーワード： チーム医療、臨床検査技師、各職種の業務内容、人間力、看護力、コミュニケーション力



山本 誠一

はじめに

高度化および専門化が進む医療現場で、チーム医療の重要性が一段と高まっている。その中で、病院で行われているチーム医療（職種の連携）における臨床検査技師の役割の現状と大学におけるチーム医療教育の現状と教育の重要性について述べる。

I 大学附属病院のチーム医療における臨床検査技師の役割

広義の意味でいえば、病院で行っている臨床検査技師の業務は、すべてチーム医療といっても過言でないほど、各職種の人と係わっている。例えば検査部に検査オーダーが来て、検体が届けば、医師、看護師、看護助手、医事課職員との協力関係が大切となる。今回は、狭義の意味で、臨床検査技師が深く係わっている委員会、共同業務について述べる。

1. 各種委員会で臨床検査技師が参加している委員会の割合（図1）

病院における委員会数、種類は、病院の規模などによって異なるが、私の経験した大学附属病院では、69の委員会が立ち上がっていた。その中で、臨床検査技師が参加している委員会は27で、割合は39.1%であった。他職種では、看護師が最も多く、51委員会で73.9%、

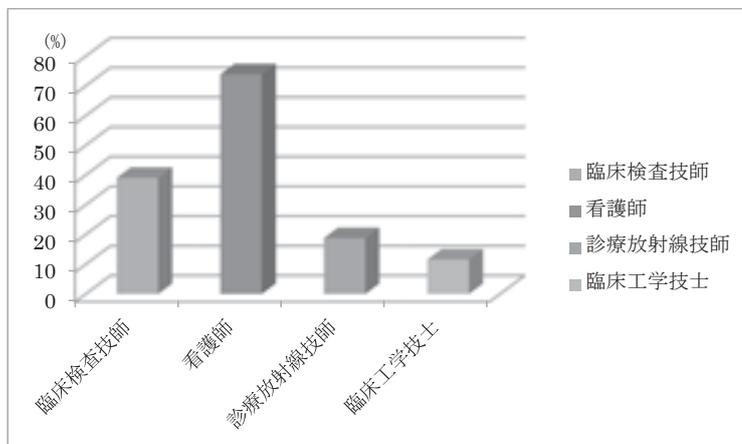


図1 職種別における委員会に参加している割合（大学附属病院の例）

診療放射線技師が13委員会では18.8%、臨床工学技士が8委員会では11.6%であった。

2. 臨床検査技師が重要な役割を果たしている委員会での活動内容

1) 中央検査委員会

- ①構成委員：臨床検査技師、医師、看護師、事務職員
- ②活動内容：検査部の活動状況の報告、今後の導入する検査の紹介、他職種から要望事項を聞き、業務の改善、拡大を行い、サービスの向上を図る。

2) 輸血療法適正使用委員会

- ①構成委員：臨床検査技師、医師、看護師、事務職員
- ②活動内容：輸血血液製剤、アルブミンの使用状況を報告し、血液製剤の廃棄や凍結血漿製剤の使用が多い診療科を指導。輸血業務に関するインシデント報告を分析し、輸血事故を未然に防ぐように指導。他職種から要望事項を聞き、業務の改善、拡大を行い、サービスの向上を図る。

3) 病院感染対策チーム（ICT；infection control team）

- ①構成委員：臨床検査技師、医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、事務職員
- ②活動内容：MRSA（メチシリン耐性黄色ブドウ球菌）などの院内検出情報を発信する。院内感染の危険性のある場合には、重点的に検査を実施し、除菌を行い、感染予防に努める。また、水道・シャワーの蛇口からレジオネラ菌（在郷軍人病の原因菌）が検出された場合、レジオネラ菌の除菌を行う。インフルエンザ、ノロウイルス等の流行情報をキャッチし、院内感染防止に努める。

4) 病院医療安全管理委員会

- ①構成委員：臨床検査技師、医師、看護師、薬剤師、診療放射線技師、臨床工学技士、管理栄養士、事務職員
- ②活動内容：インシデントレポートの分析、医療事故防止対策への取り組み、医療事故発生時の調査など。

5) 栄養サポートチーム（NST；nutrition support team）

- ①構成委員：臨床検査技師、医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、事務職員
- ②活動内容：患者の入院時初期の栄養状態をアルブミン（3.0g/dl以下）、リンパ球数、ヘモグロビンなどでチェックし、栄養状態不良者を抽出する。蛋白栄養状態の鋭敏な指標となる、プレアルブミン（トランスサイレチン）やレチノール結合蛋白の測定を行い、栄養状態を迅速に報告する。また、測定値の評価について臨床側にアドバイスをする。

6) 治験管理運用委員会

- ①構成委員：臨床検査技師、医師、看護師、薬剤師、事務職員
- ②活動内容：治験コーディネーターとして、臨床試験が円滑に実施できるように、検査スケジュールなどを検査部と調整している。

3. 臨床検査技師が重要な役割を果たしている委員会以外での活動内容

1) 入院、外来採血

- ①構成委員：臨床検査技師、看護師（1名）
- ②活動内容：採血室では、外来患者すべての採血、入院患者の約6割を実施している。

2) 糖尿病治療で入院されている患者の教育

- ①構成委員：臨床検査技師、看護師、管理栄養士、薬剤師
- ②活動内容：検査の意義、血糖測定機器の使い方、取り扱いの注意点などを説明。

3) 検査情報室

- ①構成委員：臨床検査技師

②活動内容：検査結果の問い合わせ、追加検査の依頼、検査方法、意義についての問い合わせなどに対応している。

4) POCT コーディネーター（臨床現場即時検査）

①構成委員：臨床検査技師

②活動内容：病棟での検査（心電図、超音波、血液ガス検査など）および機器の保守管理。

4. 医療チームの一員として活躍するためには

検査に対する深い知識と高い技術と豊富な経験が大切である。そのためには、臨床検査技師国家資格の上に各種認定資格の取得も大切な手段の1つである。医療チームに関連ある主な認定資格を表1に列挙した¹⁾。

表1 臨床検査技師が取得できる主な資格、認定制度

- | |
|--------------------------|
| 1. 臨床検査技師を対象とする資格認定制度 |
| 1) 認定臨床微生物検査技師 |
| 2) 認定輸血検査技師 |
| 3) 認定一般検査技師 |
| 4) 緊急臨床検査士 |
| 5) 細胞検査士など |
| 2. 臨床検査技師が資格要件となる認定制度 |
| 1) 糖尿病療養指導士 |
| 2) 治験コーディネーター |
| 3) 超音波検査士 |
| 4) 認定心電検査技師 |
| 5) 健康運動指導士 |
| 6) 健康食品管理士 |
| 7) 心臓リハビリテーション指導士など |
| 3. 臨床検査技師の知識技術が生かされる認定制度 |
| 1) 診療情報管理士 |
| 2) 医療情報技師 |
| 3) 電子顕微鏡一般技術認定 |
| 4) 認定臨床染色体遺伝子検査師など |

II 全国の病院における臨床検査技師のチーム医療の現状

平成18年に日本臨床検査技師会が行ったアンケート調査結果によると、チーム医療に参画している内容と施設数を表2に示した²⁾。また、今後参画を計画している内容と施設数を表3に示した²⁾。

チーム医療に参画している内容は、感染制御チーム（ICT）が23.6%と最も多かった。続いて、臨床検査情報提供が10.3%、クリニカルパスが9.7%、栄養サポートチーム（NST）が9.6%、糖尿病療養指導が9.3%と続いている。

一方、チーム医療に参画を計画している内容は、栄養サポートチーム（NST）が11.4%と最も多く、続いて、糖尿病療養指導が10.6%、臨床検査情報提供が9.8%と続いている。

表2 臨床検査技師のチーム医療参画の現状

平成18年日本臨床検査技師会アンケート調査結果を一部改変

チーム医療	件数	%
感染制御チーム（ICT）	2435	23.6
臨床検査情報提供	1059	10.3
クリニカルパス	1003	9.7
栄養サポートチーム（NST）	985	9.6
糖尿病療養指導	958	9.3
褥瘡対策チーム	813	7.9
臨床検査即時検査（POCT）	768	7.4
治験コーディネーター（CRC）	332	3.2
不妊治療	175	1.7
その他	60	0.6
無回答	1723	16.7
合計	10311	100

表3 臨床検査技師のチーム医療への参画の計画

平成18年日本臨床検査技師会アンケート調査結果を一部改変

チーム医療	件数	%
栄養サポートチーム（NST）	774	11.4
糖尿病療養指導	725	10.6
臨床検査情報提供	669	9.8
臨床検査即時検査（POCT）	435	6.4
感染制御チーム（ICT）	428	6.3
クリニカルパス	421	6.2
褥瘡対策チーム	283	4.2
治験コーディネーター（CRC）	236	3.5
その他	58	0.9
不妊治療	51	0.7
無回答	2735	40.1
合計	6815	100

Ⅲ 大学における医療チーム教育の重要性

前述のごとく、病院においては診療、運営などあらゆる分野で医療チーム無しでは成り立たない。したがって、大学においても医療チームについて基本的な教育が大切になっている。

1. 各職種における業務内容を理解する

チーム医療に関係する各職種の業務内容、勤務形態などをよく知ることが大切である。

本学ではインタープロフェッショナル（多職種連携）教育（IPE教育）を取り入れている。共通専門科目「チーム医療」の中で1年次から4年次まで、それぞれの職種の専門教育に合わせた段階的な指導を実施している。

各職種：1) 医師、2) 看護師、3) 薬剤師、4) 診療放射線技師、5) 臨床検査技師、

6) 臨床工学技士、7) 管理栄養士、8) 理学・作業療法士など

2. 病気および病態をよく知る

本学科では臨床病態学（臨床医学総論、臨床病理学総論）で総論を行い、各専門教科で検査と関連付けて教育をしている。

3. 人間力、コミュニケーション技術を磨く

本学では、教養教育科目の「人間の理解」「社会の理解」、共通専門科目の「現代医療」「チーム医療」で教育をしている。学園訓の「気品」「知性」「奉仕」を教育方針として、専門職としての謙虚な品性を保ち、礼節を重んじる、コミュニケーション能力の高い人材を育成している。

4. 経営感覚を磨く（コスト意識を持つ）

本学科では、教養教育科目の「社会の理解」、専門科目の「臨床検査管理論」で、検査部の収支の状況を分析し、コスト意識を持って業務を行うことの大切さの教育をしている。

5. 病院医療安全管理の大切さを知る

本学科では、専門科目の「医療リスクマネジメント」「臨床検査管理論」で、病院全体および検査部で発生するインシデント、医療事故報告を紹介し、医療事故防止対策について教育している。

Ⅳ チーム医療における臨床検査技師の今後の課題

採血室で臨床検査技師の著者（当時、技師長）と若い看護師と一緒に業務をしていた時の事例を紹介する。

早朝、「鼻からの出血」の患者が車いすで、採血室に来室した。著者は患者の容態を案じ、「今、気分はいかがですか？痛いとか苦しいことはありませんか？」と患者に容態を確認しながら採血、出血時間などの検査を無事終了した。その時、看護師は湯で温めたタオルを持ってきて、「出血したときは驚いたでしょう。大変でしたね」と優しく声をかけて、患者の顔、手などを清拭した。患者をよく見れば、鼻のまわりや手にも血液が付着していたのである。患者はとても満足そうに看護師に感謝の言葉をかけていた。著者は、残念ながらそこまで気が回らなかった。患者の気持ちに寄り添って自然と行動ができる看護師に「素晴らしいな。これこそ本当の看護だ」と敬服した。若い看護師が自然とこのような行動ができるのは、その人の感性のみではなく、日頃からの教育の成果であろうと考えている。

臨床検査技師においても採血室、生理機能検査室などで患者と直接接する部署がある。その場合、患者の気持ちをよく理解し、患者に寄り添った看護技術の教育が必要であることを痛感した。

以下は著者の経験から感じたことであるが、病院におけるコ・メディカルスタッフの中における臨床検査技師は、各種委員会においてデータの分析、まとめ、情報の提供などに中心的な役割を果たすこと

が多く、とても優秀な技師が多い。しかし、大きな役割をしている割には存在感が薄いのである。しばしば「もう少し、自分をアピールしても良いのでは…」と思うことがある。これも謙虚さとしての臨床検査技師の良いところかもしれないが…。一般的に、他のコ・メディカルスタッフとのコミュニケーションのとり方の下手な技師が多い。これからの課題としては、病院における臨床検査技師の役割は大きく、重要であることを自覚して、知識、技能のみならず人間力、看護力、コミュニケーション力を磨き、重要なポジションを任される臨床検査技師に成長することを切望する。これを達成させるためには大学での基本的な教育が益々重要である。

参考文献

1. 大澤 進, 深津俊明ほか編著: “検査管理総論第4版”, 医歯薬出版, 東京, 162 - 176, 2010.
2. 中野忠男: 検査科学科の紹介. 純真学園大学雑誌 1, 7 - 9, 2012.